

【福岡県】久留米市水田農業推進協議会



協議会の概要

申請件数・確認面積：

1,600件、6,500ha

主な申請品目：麦、大豆、飼料作物等

協議会事務局：市役所、JA、

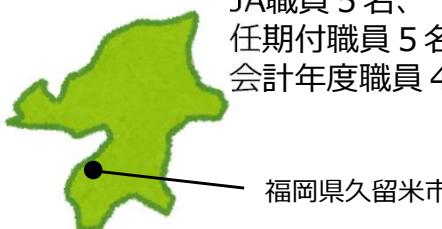
農業共済等

経安主担当者：市職員5名、

JJA職員5名、

任期付職員5名

会計年度職員4名



福岡県久留米市

現在の現地確認方法の導入経緯

- 紙地図作成等、現地確認のための準備時間やコストがかなりかかっていた。
- 農事組合長へ協力を依頼していたが、負担も伴う上、熱中症のリスク等もあり、事務局だけで完遂できる方法を考え、タブレットの導入に至った。

現地確認の方法（対象筆数：50,000筆）

	導入前（R2年度まで）	現在（R3年度から順次導入中）
方法	目視（立札、紙地図、野帳）	目視（I タブレット / II 立札、紙地図、野帳）
確認者	事務局+農事組合長	I 事務局 / II 事務局、農事組合長
時期・回数	4月、8月、その他適宜	4月、8月、その他適宜
手順	<p>①事務局が立札、紙地図、野帳等を作成</p> <p>②市→農事組合長に立札等を配布</p> <p>③農事組合長が立札を圃場に立てる</p> <p>④農事組合長、事務局が紙地図を用いて目視確認</p> <p>⑤農事組合長が立札を回収</p> <p>⑥事務局が確認結果を台帳に入力</p>	<p>I タブレット</p> <p>①市→業者へデータを渡す</p> <p>②業者がタブレットに作物情報を入力</p> <p>③事務局がタブレットを用いて現地確認</p> <p>④事務局が確認結果を台帳に入力</p> <p>II 立札、紙地図、野帳</p> <p>一部地域ではタブレット導入前のため、従来通り、目視確認（同左）を行っている</p>
費用	約1,450,000円 (農事組合長への謝金)	導入費用： I 約1,331,000円 (R3年度) 運用費用： I 約1,892,000円 (R7年度見込) II 約 300,000円 (R7年度見込)

導入の効果（メリット）

- 紙地図等を作成しなくて良くなったこと、農事組合長との調整等が必要になったことによる業務時間削減。
- 農事組合長への謝金の削減。
- 現地確認従事者の負担やリスクの削減。
- GPS機能があり、撮影した写真を地図に紐づけられるため、写真と地図のミスマッチがない。

課題・問題点（デメリット）

- システムの反応速度が遅い。
- システムの不具合が生じた場合、現地確認が行えない。
- 委託料が年々増加している。